

動き出した もう誰にも俺たちを止める力はない!

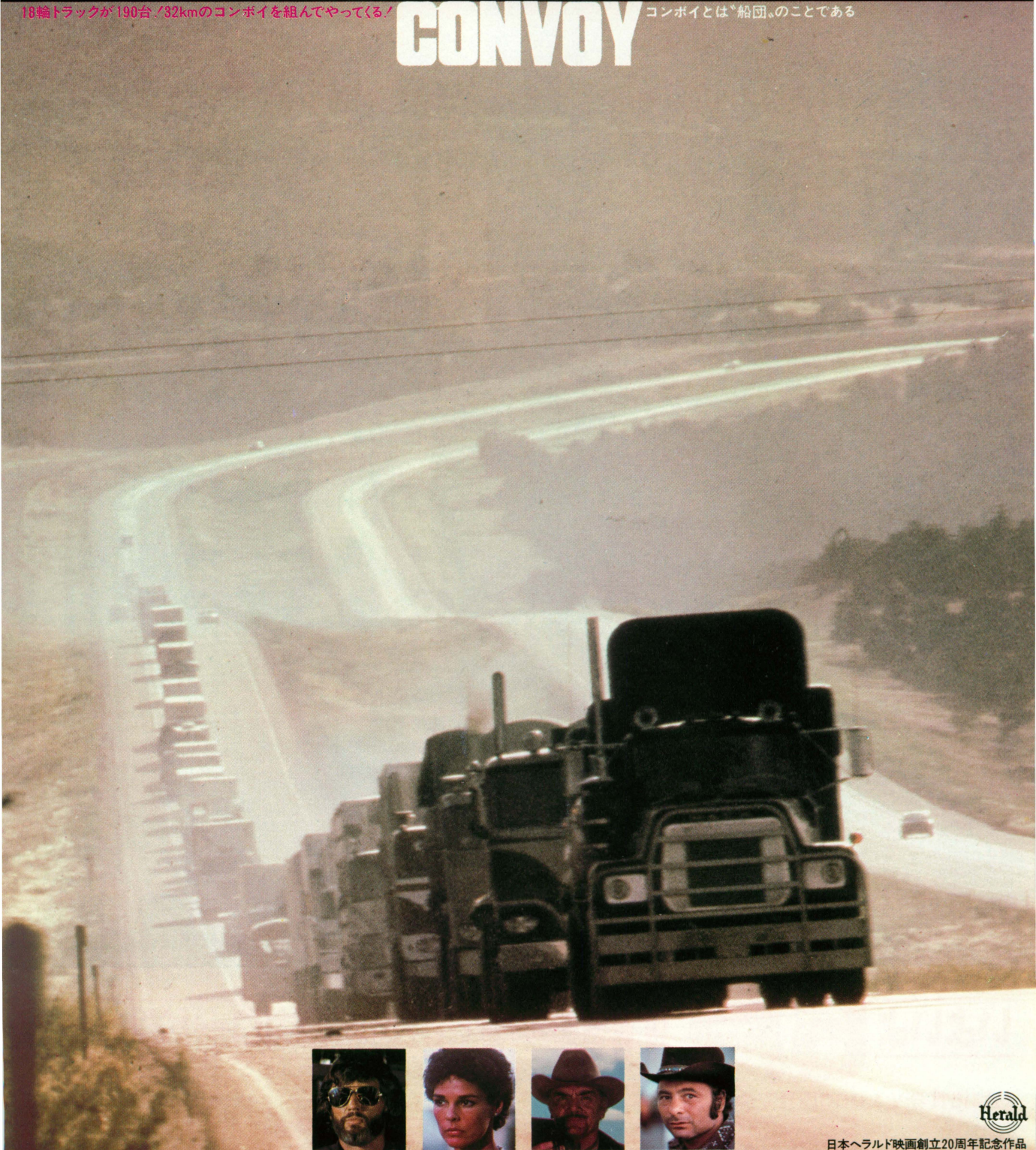
コンボイ

A FILM OF SAM PEKINPAH

18輪トラックが190台、32kmのコンボイを組んでやってくる!

CONVOY

コンボイとは「船団」のことである



日本ヘラルド映画創立20周年記念作品

クリス・クリストファーソン/アリ・マックグロー/バート・ヤング/アーネスト・ボーグナイン ■サム・ペキンパー監督 4チャンネル超ステレオ音響/カラー作品

製作指揮マイケル・ティラー/バリー・スバイキングス/脚本B・W・L・ノートン/製作ロバート・M・シヤーマン/原作本・生島治郎訳/日本ヘラルド映画出版局刊/サントラ盤ポリドールレコード/主題歌クラウンレコード



EMF Film Distributors Limited

CONVOY

コンボイ

巨匠サム・ペキンパー監督作品
 (テクニカラー(ナビジョン)4ch超ステレオ音響
 日本ヘラルド映画創立20周年記念作品)

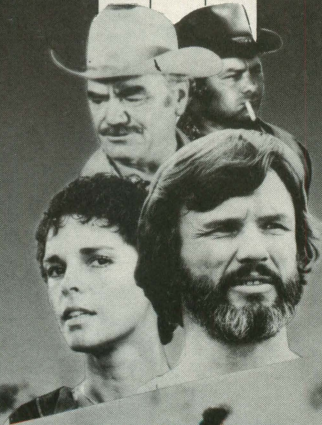
★全世界注目の超大作
 「コンボイ」がやって来る!



★人間への限りない讃歌!

製作者のマイケル・デューラーは、この映画は「人間のエネルギーに対する限りない讃歌である」と語っている。トラック軍団のパワーとエネルギーは、そのまま登場して来る男や女たちの心意気であり、野放図で楽天的なエネルギーとなり、人間への信頼感に結びついていく。いわば、ジョン・フォードやハワード・ホークスの描いた西部劇のおおらかで痛快な世界が、十八輪トラックの爆走という最も現代的なフィードバックのなかで描かれているのだ。

超一流の
 スタッフィキャストが
 集結した!



全長二〇メートル、重量二〇トン、一六段ギア、総排気量一六〇〇ccという巨大一八輪トラックが何と九〇台、コンボイ(船団)を組んでやって来る。デューラーの黒煙を吐き、地響きをたてて轟進する隊列は三二キロに及び、パトカーを蹴ちらし、町を踏みつぶして突っ走る、という凄まじさ。まさに、コンボイは誰にも止められない。

アメリカの孤独なハイウェイを巨大なマシンを駆っていくトラックたちは、現代のカウボーイといえる。埃にまみれ、馬の背に揺れながら旅したかつての男たちの面影を深くとどめている。これは、そんな誇り高く、自立心に富んだ彼らが生み出した壮大な物語である。

ことの始まりは、ある日、トラックたちが横暴な警官と喧嘩を起こしたことだった。このありふれた出来事が、彼らにコンボイを組ませた。最初は数台にすぎなかったそれが、日頃の政治屋どもの理不尽なスピード規制や警官への不満が引金になってふえはじめる。CBラジオを通して呼びかけ合ったトラック

たちが各州から押し寄せて来るに及んで、それはとうもろこしい数になってしまった。マスコミが騒ぎ始める。テレビを見た人々が興奮して馳せ参じる。政治家はうろたえ始めた。トラックは嬉々としてこのエネルギーの奔流を楽しんでいる。そしてゲームから権力との正面衝突へとエスカレートしていった。

「ワイルド・バンチ」「砂漠の流れ者」の監督でもあるサム・ペキンパーにとって、この作品はいわばメイン・フィールドでの作品といえる。現代のトラックたちに、男たちの伝説を偲びながら痛快でパワフルな物語をつくりあげていく。

主演のクリスクリストファーソンはペキンパーの「ビリー・ザ・キッド」21才の生涯で映画に初出演して以来、ペキンパー作品の常連。ペキンパーの描く男の肖像にはなくてはならぬ存在である。トラックに同乗する写真ジャーナリストに扮するのは「ある愛の詩」で一躍トップ・スターになったアリ・マックグロウ。「ゲッタウェイ」以来実に四年ぶりの映画出演である。トラックの宿敵の保安官には「北国の帝王」の名バイプレイヤー、アーネスト・ボーグナイン、トラックたちには、ユニークな演技で頭角をあらわした「ロッキー」のバート・ヤング、「カー・ウォッシュ」のフランクリン・アジェイ、「ルーツ」のマジック・シンクレアなどが扮している。

C・W・マッコールのヒット・ソング「コンボイ」を素材にB・W・L・ノートンが脚本を担当、撮影はハリ・ストラッドリングJr、音楽はジェリー・フィードディング。また、ペキンパーを師とあおぐ俳優のジェームス・コバーンが助監督をつとめているのも話題である。

いよいよ **6月10日** (土)世紀の大ロードショー!

特別鑑賞券 ¥ 1,000円発売中!

渋谷東急文化会館1F (407)	歌舞伎町 (202)	不忍ロケーションホテル隣 (831)
渋谷パルテオン 7219	新宿ミラノ座 1189	上野東急 6620

6月10日(土)17日(土)24日(土)特別オールナイト 於渋谷パルテオン